vol. 80 本に書かれているようで書かれていない、日常のふとした疑問におこたえします Jan2018

TEC branch リニューアルのお知らせ

「TEC branch」は、平成22年より約7年間掲載を続け、今回で80号となりました。

制作のきっかけは、私どものお客様である工務店、意匠設計事務所、プレカット工場、住宅メーカーなどに営業訪問をした時に始まります。様々な話をしていると、ほとんど方から構造についての質問をいただきます。「吹抜はどれぐらいまで大きくして良いの？」、「スキップフロアはどうすれば構造的に問題なくできるの？」、「耐力壁が足りない場合のテクニックは？」などなど。その都度説明をすると、お客様は私の説明をメモし、スケッチし、真剣な顔でうなづきながら聞いてくださいます。それを1年ぐらい続けているうちに、質問の内容が似ていることがわかり、その質問の答えは市販されている構造関係の本に書かれてないことが多く、また、書かれていたとしても実務的ではなく、あまり参考にならないこともわかってきました。そこで、私が説明している内容を、解りやすい図解を加えて書面にして定期的にホームページにアップし、さらに、冊子にしてお客様にお渡しすることによって、メモを取ることもなくなり、必要な時に開いていただければ、便利に使ってもらえるのではと考え始めました。（実は正直私自身も、毎回スケッチを描いて同じような説明を繰り返すより、冊子を渡して説明する方が、丁寧でより信頼を得られますので、良き相棒になると思っていました。）

「branch」とは、朝食と昼食を兼ねた食事の「brunch」ではありません。「枝」を意味する言葉です。1本の木には根があり、幹があり、枝があり、葉があり、実がなり花が咲きます。幹は一本ですが、実や花をつけるには多くの枝が必要です。同様に、安全で安心な建物を完成させるには、構造の基本を理解するだけではダメで、「枝」のように、多くの実務的な知識が必要というで意味を込めて「branch」としました。私は構造の専門家ではありませんが、お客様と話していると、設計の実務について書かれた構造の書籍、資料は本当に少ないと感じました。「実務設計者のための構造読本」といいますか、細かな根拠や理屈などはヌキで、強いていうと料理本のように「今ここにある設計を進めるために必要な情報」に特化したものを、多くのお客様が求めていることがわかってきました。

そんな経緯があることと、掲載を始めたころの情報が古くなってしまい刷新しなければならないことも増えてきました。そこで、耐震等級2以上を取得するための必要な情報に特化した構造読本としてリニューアルすることに致しました。この読本に従って設計すれば、後日、構造計算によってプランのやり直しはなくなり、しかもオーバースペックにもならずに工事予算も抑えられ、丁度良い耐震等級2、3の住宅設計ができることになるでしょう。そして、怖くてなかなかチャレンジできなかった難しい空間も、どこまでできて何がダメなのかが解り、設計の幅が広がると思います。

2月号では毎月掲載する内容と予定を説明します。そして3月から本格的にスタートします。どうぞ、ご期待ください。

TEC branch は HP にて連載中です。
答えてほしい疑問などをお寄せ下さい！
次回は、リニューアル編の内容について

BX TOSHO株式会社
URL：http://www.tosho-engineering.co.jp
〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-20-8 BENEX S-3ビル2階 TEL：045-534-7500 FAX：045-534-7501